

村上博輔日記抄 十二

自大正十年四月一日

至大正十一年三月三十一日

大正十年

四月一日 金 晴 朝教師会議ニ顔ヲ出シタガ、格別ノコトモナイノデ帰ル。村井（種一）ニ逢ウテ一切ノ話ヲ聞ク。文科教務課ニ往キ二三ノ差図ヲナシ、其ヨリ佐藤（清）氏ヲ訪ヒ日下（悦次郎）ノ事ヲキメテ来ル。（中略）午後モ教務課ニ往キ、二三ノ要件ヲ果シ、院長室ヲ訪ウタガ（C・J・L・）ペーツ氏居ス。三宅（嘉策）氏ト少シク話ヲシテ出ル。二階ニハ青年会ノ総会ヲヤツテ居タ。

四月二日 土 晴 入学試験準備ノ為メゴタ／＼ト種々ノコトヲシテ夜ニ入ル。夜食ヲ学生会館ニ開カレタル同窓会ニ出席シテ共ニヤル、兎ニ角今日ハ忙シキ日。（後略）

四月三日 日 雨 東風吹キテ嫌ナリナリ。教務室ニ何カ重要ナル書類ガ放置シテハ無キカト氣ニ係リタレバ朝起キルト往テ見ルニ果シテ受験者名簿ガ有ツタデ取りテ帰ル。

出席簿ガ作ラレテナイ。明朝ハ早速要ルノデ假ニ作ル。其ヲ手始メトシテ今日ハ不愉快ナ一日デアッタ。夜ニ入ルマデ机ノ前ニ座シ快タトシテ日ヲ送ル。マダ身体ガ充分恢復シテ居ランノデ少シノコトニモ疲レガ出ル。午後寺師（一義）ガ遊ニ来ル。薩摩ノ奴ハ毒ガ無ウテヨイ。

四月四日 月 晴 入学試験。昨夜ノ雨ニ貼紙ガ取レタノデ朝往キテ貼ラス。佐藤（清）氏ノ英語ト畑（歆三）氏ノ和文英訳ト監督ニ河上（丈太郎）氏モ見エ、（村上）謙介ト木村（巳之吉）トニ手伝ウテ貰フ。中学部ノ方ヘモ覗イテ見ル。是ハ受験者九百二十人デ只百五十人取ラレルトイフノデヤカラ必死トナルベキ筈デアルガ、小児ハ割合ニ平氣デアアルノガ可愛イ。商科五百人許デ百六十人ヲ取ル。文科六十二人デ五十人以内。出来タモノダケ親子井ヲヨバレル。午後湯ニ往キ疲レガ出テネル。（後略）

四月五日 火 曇午後雨 入学試験ノツヅキ。午前国語漢文作文、午後婦リテ点ヲ採ル。〈村上〉謙介ニ助勢セラレテソレデモ十二時マデカ、ル。午後二口答試験、アリシ筈ナリ。本年ノ生徒ハ思ウタヨリモ割合ニ揃ウテヨシ。(後略)

四月六日 水 午前九時ヨリ文科教師會議。次デ成績發表ヲ済シテ一応落着ヲ見ル。(後略)

四月七日 木 久シ振ノ骨休メ。午後湯ニ往キ婦テ見ルト門戸ノ松本長兵衛氏ガ来テ居リ、何トカイフ甥ガ商科ヘ志願シテ居ルノデ入レテ貰イタイトイフ。言ウタ所ガ仕方ガナイ。試験ノ成績ガ如何ナツテ居ルカ聞イテ貰ヒタイトイフ。分ルマイトイウタガ婦ランノデ仕方ガナイ。商科ノ教師ヲ尋ネテ見タガ誰モ居ランデ是モ仕方ガ無イトイウテ返ス。畑〈歛三〉氏ガ来テ明石〈女子〉師範〈学校〉ノ誰トカニ生物学ノ教授ヲ頼ンデクレヨトイフ、(後略)

四月八日 金 半晴 朝学院ニ出デ〈H・F・ウヅウオー〉ス氏ニ逢ヒ、三宅〈嘉策〉氏ヲ訪ネ、田中〈義弘〉ノ掛持ヲ許スカノコトヲ聞キ、真鍋〈由郎〉氏ニ山鳥〈吉五郎〉氏ノコトヲ尋ネテ婦ル。スルト伊東祐大トイフ新入生徴兵検査デ婦ルニヨリ市役所デ旅費ヲ貰フ都合アレバ入学許可証ヲクレヨトイウテ来ル。教務ニ往ケバ扱ウテクレズ。ハ

ミル館ニ往ケバ誰モ居ズトイフノデ来タガ、予モ困ルカラ又往キテ交渉シ、小澤〈瀟〉氏ニ書イテモラフ。其カラ午飯ヲ食ベテ電車デ明石ニ往キ、山鳥〈吉五郎〉氏ヲ訪ネ城址ヲ見テ婦ル。(後略)

四月九日 土 曇 昼前学校ヲ訪ウテ雑務ヲスマス。入学試験ニ運動部ノモノガ大部分落サレタトイフ苦情ヲ聞ク。文科ヘ入レテクレヌカト頼ミニ来ルモノガ種々アルガ是ハ不可能。又一人商科ニ入学シタレドモ満足セザル所アリ文科ヘ入レテクレヌカトイウテ来ル。(後略)

四月十一日 月 雨 (前略) 九時ヨリ始業式。〈C・J・L・ベーツ氏訓話ヲナシ卒業試験及ビ入学試験ノ結果ヲ知ラシメ、試験規則ノ勵行ト出席ノ大切ナル点ニ就キテ話ス、山鳥吉二郎氏ノ書面ヲ受取ル。(中略) 午後二時ヨリスクール・カウンシル。(後略)

四月十二日 火 雨、授業始ル。但シ初日ノコト、テ実地授業セズ。(中略) 〈C・J・L・ベーツ氏講話。

四月十三日 水 曇後晴 講堂ノ話ヲサセラル。義二生キヨトイフヤウナ趣意ニテ話ス。三年ノ仮入学生ヲ呼出シテ言渡ス。神学部ヘ本週中不参ノ由言ウテ行ク。午後入学式。岸波〈常蔵〉氏聖書、松本〈益吉〉氏祈祷、松本〈益吉〉ノ話、〈C・J・L・ベーツ氏ノ話、次ニ教務ノ広告ヲ予、

時実〔佐平〕⁽²⁾氏ノ徴兵令ニ関スル件ノ話アリ、〔H・F・〕ウヅウォース氏ノ祝祷ニテ解散、無届欠席一人モナシ。

四月十四日 木 晴 講堂、松下續雄ノ皮切り、一時間ニ一年デ漢文ノ方針ヲ話ス。書物ガ無いノデ学課ハヤラス。午後ノ三年ノ課ヲ三時間ニ繰上ゲテクレヨトイフノデ然ヤル。午後湯ニ入ッテ歴史ノ講義ヲ書ク。(後略)

四月十五日 金 晴 時間割ノ行違ニテ今日モ課業ニ就ク能ハズ。午後一時ヨリ教授会。⁽⁴⁾□□ノ留級、平井ノ入学、聴講生ノ件ヲ議ス。月謝免除ト貸費出願モ。(後略)

四月十六日 土 晴 講話岸波〔常蔵〕氏。今日始メテ業ヲ授ク。時ヲ粗略ニセヌヤウニ勉強セヨト勸メ置ク。(後略)

四月十七日 日 曇小雨 松下〔續雄〕氏ノ説教アリ。真鍋〔由郎〕氏ニ大成伝道金ヲ渡ス。(中略) 夜今晩ヨリ地方教育集会⁽³⁾トイフモノアリテ活動〔写真〕モアルカラ見ニ往カントイヒ居リシガ留守番ヲサセラル。先頃ヨリ疲労ノ為ニヤ神經衰弱強ク起ル。

四月十八日 月 晴 講話〔H・F・〕ウヅウォース氏。(後略)

四月十九日 火 晴 講話佐藤〔清〕教授。(後略)

四月二十日 水 曇午後雨 鷗崎〔庚午郎〕講話ス。三

年ノ漢文二時間ニ繰上ゲ、理事会デ〔C・J・L・〕ベリツ休ミシ為ナリ。(後略)

四月二十一日 木 雨 講話松下〔續雄〕氏。(後略)
四月二十二日 金 雨 司会大塩〔彦治郎〕、話木村〔巳之吉〕。(後略)

四月二十三日 土 晴 講話河上〔丈太郎〕氏。十一時ヨリ新入生ノ歓迎会、学生会館ニテアリ。焼薯、南京豆、塩煎餅、終ニ一ツ話ヲヤラセラル。内藤〔憲隆〕⁽⁴⁾生自彊術ヲヤル。(後略)

四月二十五日 月 晴 講話岸波〔常蔵〕氏。午後一年ニ訓話ヲスル。(後略)

四月二十六日 火 晴 講話〔C・J・L・〕ベリツ氏。午後三時ヨリスクール・カウンスルデ馬鹿手間ヲトラレ、(後略)

四月二十七日 水 曇小雨 講話畑〔歎三〕氏美的生活ノ平凡説。〔H・F・〕ウヅ〔ウォース〕氏休ニツキ三年漢文ヲ繰上ゲル。午後毎日トノ野球ヲ見ル。途中カラ返ル。例ノ如キ落付ノナイ試合、六対三デ負ケル。

四月二十八日 木 晴〔雨午前〕 講話松下〔續雄〕氏、昨日ヨリ鎌尾〔義一〕ニオルガンヲ頼ム、大塩〔彦治郎〕⁽⁵⁾以上ナリ。(後略)

四月二十九日 金 半晴 講堂今泉〈隼雄〉生。其後希望スル所並ニ学院ヲ常ニ□成品トシテ保テトイフ。(後略)

四月三十日 土 曇雨 講話河上〈丈太郎〉氏。午後外出セズ。夜自修寮ニテ堀(峯橋)氏送別、松下(續雄)氏歓迎ノ兼会アリシガ、例ノ如ク留守番ニ当リテ行カズ。

五月一日 日 雨午後曇 (前略) 夜地方教育集会ヘ往キテ見ル。鉄橋下ヲ汽船ノ通ル活動(写真)ヲ始メ、瀑、炭鉱、灯台ノ内部等ヨリ、イエスノ幼時ノソレ、幻燈ハ猶太ノ風景、三戸(吉太郎)ノ生蕃日曜学校ノ話。

五月二日 月 曇半晴 講話岸波(常蔵)氏。昨日内田吉五郎氏死亡ノ知ラセ来リ今日悔状ヲ出ス。(後略)

五月三日 火 晴 講話ヲヤル。出席ノ奨励ト小心智識ノ基礎ヲ形造ルノ必要、陣笠気分ヲ去ルコトニツイテ話ス。

(後略)

五月四日 水 晴 講話(H・W・)アウターブリッツ氏。今朝神衰デ三時カラ寢ズ。昨日モ一昨日モ不眠ナレバ午後倦怠デタマラズ。(後略)

五月五日 木 朝晴曇雨 講話松下(續雄)氏。(H・F・ウヅ(ウオース)氏ヨリ入学試験ノ礼十五円受取ル。第二啓明寮ニ記念会アリ。招カレタレドモ往ク能ハザリキ。東京庵ノ寿計二人前ト菓子、橙ヲ送リテモラフ。

五月六日 金 雨(東風強) 奥村(義雄)司会、内藤(憲隆)話ヲスル。(後略)

五月七日 土 雨 講話菊池(七郎)氏、科学ト宗教トデ間違ッタコトヲイフ。(後略)

五月八日 日 晴 教会松下(續雄)氏、母ヲホメ過ギル。(後略)

五月九日 月 晴 講話(H・F・)ウヅ(ウオース)氏。原田杜ノ祭ニテ騒ガシ。(後略)

五月十日 火 晴 講話(C・J・L・)ペーツ氏。午後中学部野球大会、一年ト二年ノ試合ヲ見ニ往ク。六回八対八同点ノ所デ返ル。(後略)

五月十一日 水 雨 講話畑(歛三)氏。今日ヨリ比較宗教ヲ大キク書ク。(後略)

五月十二日 木 晴 講話松下(續雄)氏、時間ヲ間違ヘ、アチヲモ丁度休デアッタノデ神学予科一年ノ業ヲ一時間早クヤル。(後略)

五月十三日 金 晴 チャペルデ江原(隆二)ノ司会、広重(森一郎)ノ話。午後三時ヨリ(H・F・)ウヅウオース氏ノ宅ニテ教師会議。紅茶ニサンドウキツチ、菓子二種、イチゴ出ル。(後略)

五月十四日 土 晴 講話岸波(常蔵)氏。午後隣家ニ

木ヲ敲キテ何カ唱ヘルノガ気分ニ障ルノデ野球ヲ見ニ往ク。
教師ト一年デ教師ガ負け、次ニ四年ト五年ヲ二回ダケ見テ
帰ル。(後略)

五月十五日 日 晴 教会(Ｊ・Ｃ・Ｃ・) ニュートン
氏ハリス監督ニ就キテ談ス。(後略)

五月十六日 月 晴 講話(H・F・) ウヅ(ウオース)
氏、(中略)(C・J・L・) ベーツ氏ヨリ園遊会ノ案内(木
曜午後三時―五時) 来リ往クトイフ端書ヲ出ス。

五月十七日 火 晴 講話佐藤(清)氏、水戸中学ノ問
題ヲ出シテ弥次クル。私学ノ難有サハ其デ何モ八釜敷ナラ
ヌコトデヤ。(後略)

五月十八日 水 雨 講話(W・J・M・) クラック氏。
校内弁論大会アリシガ往カズ。

五月十九日 木 曇時々雨 講話松下(續雄)氏。午後
三時ヨリ(C・J・L・) ベーツ氏園遊会ニテ往ク。雨ノ
為ニ急ニ屋内ニナル。所々ニ机ヲ分ケテ取成シヲ宣教師夫
人ガ受持、予ハ(W・J・M・) クラック夫人ノ机ニ往ク。

曾木(銀次郎)、時実(佐平)、柴野(秀夫)、栗栖(長文)、
重田(富吾)、松本(益吉) 夫人ガ一組、他ハ例ノ如ク五
時頃ニ済ム。湯ニ往ク能ハザリキ。

五月二十日 金 晴 講堂青年会書記スコットカイヘ

ル人、^{オーストリア} 塊太利青年ノ憫ムベキ状態ニツイテ語ル。(後略)

五月二十一日 土 晴後曇 文学部遠足ニ行ク。午後婦
人会アリ。中学部ノ弁論大会アリ、覗イテ見ル。庭球大会、
角力大会(何レモ中学部校内)、(神戸)ニ中ト野球アリ。
三回マデ見テ帰ル。(後略)

五月二十二日 日 晴 礼拝松下(續雄)氏。(後略)

五月二十三日 月 午後雨(雷) 礼拝(H・F・) ウ
ヅ(ウオース)氏、河上(丈太郎)氏休ニツキ一年ノ業ヲ
午前二繰上ゲテ午後休ム。(H・F・) ウヅウオース氏ヨリ(村
上)謙介奨学金今年分貰フ。後後大雷学院南門入口ノ松ニ
落ツ。(後略)

五月二十四日 火 晴 講話(J・C・C・) ニュート
ン氏。総務部ニテ小切手モラヒ、第四時間ニ正金銀行ヘ
往キ金受取り。(後略)

五月二十五日 水 晴 講話吉岡(美国)氏ノ処来ザリ
シニヨリ(H・F・) ウヅウオース氏代ル。(後略)

五月二十六日 木 晴 講話松下(續雄)氏。午後三時
ヨリ片腕運動、吉崎(彦一)氏ノ奨励、次ニ宗教運動ト片
腕運動トイフ題ニ賀川豊彦氏談ス。要領ノ得ラレスコト
ヲ無茶苦茶ニシヤベル。勿論趣意ニ於イテハ悪いコトナシ。
愛ノ中ニ神アリトイフコト。(後略)

五月二十七日 金 晴 午前出校セズ。午後三時ヨリ片腕運動、岸波〈常蔵〉氏奨励、賀川〈豊彦〉氏社会運動ト兄弟運動トイフ題ノ話。但シ欠席シタ。

五月二十八日 土 晴 講話岸波〈常蔵〉氏。大下〈康雄〉生ヨリ写真ヲ貰フ。午後片腕運動ノ奨励ヲヤル。賀川〈豊彦〉氏ノ話ハ科学生生活ト兄弟運動、其後デ懇談会アリシガ往カズ。(後略)

五月二十九日 日 晴 説教〈C・J・L・〉ペーツ氏、商科生徒七人ノ受洗者アリ、(後略)

五月三十日 月 晴 講話〈D・〉ノルマン氏、ウキルキンソントカイフ婦人独唱ス。河上〈丈太郎〉氏休ニツキ午後ノ時間ヲ繰上ゲル。(後略)

五月三十一日 火 晴 講話〈H・F・〉ウヅウォース氏。(後略)

六月一日 水 雨 講話畑〈歛三〉氏。(後略)

六月二日 木 雨 講話松下〈續雄〉氏。記事ナシ。

六月三日 金 晴 チャペル学生、午後一時十五分ヨリ高野山大学生ノ交換演説、神学部講堂ニテアリ。ソレデ昼飯ヲ成全寮ニテ、夕飯ヲ杏香楼ニテ喫フ。講演ハ釈尊ノ根本思想(西山祐道)、高野山古徳ノ基督教研究(響田法寿)、仏教ト療病祈願(吉本道堅)、終ニ清浄本覺ニツイテトイ

フ題デ教授森田龍遷氏ガ話ス。起信論・四鏡説ノ解説デアッタ。(後略)

六月四日 土 晴 講話岸波〈常蔵〉氏。十一時半ヨリ教授(高野山大学ノ) 穉月聖憲氏ノ我が安心トイフ題ノ話、真言宗ノ信仰ハ凡聖不二ニアリトイフコトダケデ、セミチック教ト、アールヤ教トノ両流ノコトヤラ何ヤラアシラウタモノ、詰ラヌ話デアッタ。其前神学部ニ煩惱即菩提ノ解説及批評(田辺耕本)、二界増減ノ問題トイフ森田龍遷氏ノ話ガアル。前ノハ学生デ平凡、後ノハ何ヲ話スノカト尋ネテ見タラ仏会衆生会ノ増減不増減ヲ話スノデアッタガ、時間ガ衝突スルノデ聞カナンダ。其カラ〈J・C・C〉ニユートンノ招キデカフェエ、ライオンデ昼食ヲ食フ。(後略)

六月六日 月 講話〈イアン・〉オゾリン、栗栖〈競〉君尋来リテ鰯ヲ貰フ。夜日下〈悦次郎〉君尋来リ福来餅ヲ貰フ。(後略)

六月七日 火 晴 講話佐藤〈清〉氏。記事ナシ。

六月八日 水 晴 〈関西〉学院ノ古ニ就テ話ヲスル。社会科森田〈進〉転本科ノコトヲ聞キニ来ル。願書ヲ出スヤウニ云フ。川合□□ヨリ文科ヘ転ズルコトヲ書留郵便ニテ尋来ル、返事出ス。

六月九日 木 晴 講話松下〈續雄〉氏。記事ナシ。

六月十一日 土 曇雨 九時ヨリ大講堂起工式。⁽⁷⁾ 松下

《續雄》聖書、松本《益吉》アブツタヤウナ話ヲシテ其後《C・J・L・》ベーツガ鋤ヲ渡シテ皆一度ヅ、土ヲ掘ル。続イテ文学部教室ノ起工式アル筈ナリシガ雨ノ為ニ延ブ。(中略)《大阪》医大ガ来テ剣道部試合ガアル、見ニ往カズ、(後略)

六月十三日 月 晴 文学部教室起工式。⁽⁸⁾ 岸波《常蔵》聖書、松下《續雄》析、《C・J・L・》ベーツノ話ニツイデ、予談ス。其ヨリ一同土ヲ掘る返シテ写真ヲ撮ル。此初ノ祝福セラレ益大ナランコトヲ、(後略)

六月十四日 火 雨 講話《H・F・》ウヅウォース氏。学院ノ方記事ナシ。(後略)

六月十五日 水 雨 講話畑《歛三》氏。(後略)

六月十六日 木 晴、雨 講話松下《續雄》氏。記事ナシ。(後略)

六月十八日 土 雨 講話河上《丈太郎》氏。(後略)

六月二十日 月 曇 講話青木澄十郎氏。⁽⁹⁾ 聖書ノ空氣ニフレヨトイフコトヲ話ス。(中略) 中学部ノ運動場ニ《神戸》一中ト蹴球ヲヤツテ居タリ、無勝負。

六月二十一日 火 雨 講話《W・J・M・》クラッグ氏ノ所来ラザレバ《H・F・》ウヅウォース氏話ス、(後略)

六月二十二日 水 雨後曇 (前略) 講堂《C・J・L・》ベーツ氏。(後略)

六月二十三日 木 晴 講堂松下《續雄》氏。神学部ノ業今日ヲ以テ終ル。比較宗教ノ空觀大乘済ム。漢文王承福伝ス。国文文覚頼朝ニ会フコト済ム。此項ノ盛衰記ダケ省ク。(後略)

六月二十四日 金 晴午後雨 学生ノ話ガ出来ントイフノデ俄ニ話ス。態度ニ氣ヲツケタトイフコトヲ話ス。(後略)

六月二十五日 土 晴 講話岸波《常蔵》氏。一年生二人放課後尋ネテ来ル。午後婦人会《村上》八重、《J・C・C・》ニユートン氏ノ宅ニ往ク。中学部ト《神戸》二中ト野球ヲヤツテ居タ。往キテ見ル。終頃デアッタ。予ガ往テカラハ関二、《神戸》二中デアッタガ、其前ニ負ケテ居タノデ負ケタトイフ。

六月二十七日 月 晴 講話《イアン・》オゾリン(中略) 午後運動場デ拍手ヤ応援ガ聞エルノデ往テ見ルト中学部ト松本商業ノ野球、松本《商業》ボロ負け、七対〇ノ所デ返ル。其後デ中学部モ失策ヲヤツテ十対六デ勝ッタトイフ。何時デモアノ失策デ損ヲスル。但シ松本《商業》ハ去年鳴尾ノ復讐戦トシテ必勝ヲ期シテ来タトイフ。(後略)

六月二十八日 火 雨 講話《H・F・》ウヅウォース

氏。記事ナシ。

六月二十九日 水 雨 講話烟〈歛三〉氏。午後二時ヨリ総務会議、次デ四時半ヨリ文学部教務会。終ノ会ニテ菓子ハ何方モ立派、総務会議デハラムネ、文学部デハアイスクリームノ山盛、腹ノ悪キ所デ充分ニ食ハレズ。(後略)

六月三十日 木 雨 講堂予ノ所、H・W・アウタヘーブリッジ夫人ノ独唱、松下〈續雄〉氏ノ話等アリテ広告、今日ノ課業ニテ当分休トナル。一年漢文死節伝終ル。二年国文若紫済ム。三年李白詩金陵城西樓、月下吟スム。一年歴史蒙古發展スム。次ハ九月十二日ヨリ平日通り授業。午後木村巳〈之〉吉来リ甲府ヘ来テクレヨトテ金十円兎二角置テ行ク。(後略)

七月一日 金 晴 朝六時講演部ノ出發ヲ西灘駅ニ送ル。前川〈清〉氏来リ一緒ニ行ク。(後略)

七月五日 火 晴 (前略) 午後三時ヨリ〈神戸〉一中ト関〈西学院〉中〈学部〉ノ野球、応援アリ。二対〇デ勝ノトキ(第四回)カヘル。関〈西学院〉中〈学部〉ノ投手アガッテボールノ連発、是デハ孰レ打タレル時モアルカラ、四球送りノ大損スルコトモアラウ。伝道隊原氏ヨリ端書着ク。

七月六日 水 剣道部石本〈廣一〉、会津ヨリ端書ヲ送

リ来ル。金沢、長野、新潟ヲ突破シ来ルトアリ。(後略)

七月七日 木 晴夜雨 朝桑原ノ家ノ方ニ焼サシノ紙来リ居ルコト連朝トイフノデ起キテ行クト、先日中学部ノ生徒ガズクリンノ側デ紙反古ヲ焼イタ其残リガ一片二片ヅ、風ニ吹カレテヤツテ来ルトイフコトガワカッテ安心、其反古ノ中ニハ体格検査表トハガキガアリ其端書ハ朝本朝雄トイフ宛名ガアッタ。

七月九日 土 晴 (前略) 〈R・C・アーム〈ストロング〉(輕井沢二二五)氏ヨリ慈党の生死年月ヲ尋ネテ来テ返事ヲ出ス。(後略)

七月十日 日 晴 (前略) 教会松本〈益吉〉氏説教、信仰ニ就テノ話。頭アルモノニハ詰ラン話。無学ノモノニハ何ノコトカワカルマジ。中途半途ノモノガ半信半疑ノ間ニ聞イテ帰ル。斯クシテ今日ノ教会ナルモノハ社会ニ於テ殆ド意義ノナイモノトナル。(後略)

七月十二日 火 晴午後雨 (前略) 河上〈丈太郎〉氏ヨリ長野発ノ書状来リ余ノ甲府ニ来ルコトヲ求メタレドモ熟考ノ上往カザルニ決ス。(後略)

七月十三日 水 雨 朝河上〈丈太郎〉氏ヘ往ク能ハザル由手紙ヲ出ス。

七月十五日 金 晴 慶〈応義塾〉大ト弓術ノ試合アリ。

午前九時ヨリ行キテ見ル。選手八人?三十射、四度目ノ交代ガ済ンダ所デ帰ル。関〈西学院〉高〈等商業学部〉十点ノ勝ナリキ、〈村上〉楨三今日デ試験スム。(後略)

七月十七日 日 晴 学院教会へ往ク。松下〈續雄〉氏ノ説教、祈祷ニ就テトイフ例ノ通り集会少シ。(後略)

七月二十五日 月 晴 松本〈益吉〉、真鍋〈由郎〉、菊池〈七郎〉、佐藤〈清〉、河上〈丈太郎〉、曾木〈銀次郎〉ヲ訪問スル。木村〈巳之吉〉氏ヤツテ来ル。金沢ノ話聞ク。十円返ス。(後略)

七月三十一日 日 晴 学院教会ニ往ク。松下〈續雄〉氏ノ話。(中略) 関西〈学院中学部〉御〈影〉師〈範〉ニ大勝ス。(後略)

八月十六日 火 晴 温度九十六度ニ昇ルトアリシガ風アリテ昨日ヨリモ凌ギ易カリキ、夕刻建築工事場ニ往キテ見ル。(後略)

八月二十一日 日 晴 朝ハミル館ニテ話ス(殺スナカレ)(後略)

八月二十四日 水 晴 (前略) 夜真鍋〈由郎〉氏訪来、旅行中ノ談ヲ聞ク。

八月二十九日 月 雨午後雷鳴 (前略) 朝松本〈益吉〉氏夏期学校ノ挨拶ニ来ル。

八月三十日 火 曇 夜夏期学校歓迎会ニ顔ヲ出ス。親睦会ハ居ラズシテ帰ル。(後略)

九月一日 木 晴 夜夏期学校へ視イテ見ル。赤心吐露会ナリ。二三人気焰ヲ挙ゲル。例ノ如クツマラスモノナルガ、頭ノ悪キトキハ人ノ話ヲ聞クコト医治ノ効アルモノナリ。

九月四日 日 雨 松下〈續雄〉氏ノ説教ヲ聞ク。誠ニ困ツタモノヂヤ。是デハ教会ハ社会ニ対シ何モスルコトハ出来マイ。信者ハ教会ニ集ツテ無意味ノ一時間ヲ過スコトニナル。(後略)

九月五日 月 曇 文学部へ視イテ見ル。院長室ニ宅〈嘉策〉氏ヲ訪フ。夏期学校今日済ム。尾崎元吉ニ逢フ。午後文学部書記ノ人訪来、(後略)

九月十二日 月 雨 今日ヨリ授業始ル。(イアン・ン)オゾリンノ代リニ蘇州大学ニ居タボーラックトカイフ人来ル。中学部ニ往キ八卷〈頼夫〉氏ニ明後日講演ノ事ヲ話ス。(中略) 午後柴野〈秀夫〉氏来リ。富安休学ノ事話アリ、明日ノ教授会ニアテ、後答ヘント約ス。(後略)

九月十三日 火 雨 (前略) 午後三時ヨリ教授会アリ。(後略)

九月十四日 水 雨 (前略) ダンテ六百年記念トシテ

八卷〔頼夫〕氏ノ談ヲ聞ク。チャペルノ後デ神曲ノ梗概ヲ語レリ、(後略)

九月十五日 木 雨 今日ヨリ齊藤勇氏ノ英文特別講義アリ。其前佐藤〔清〕氏ノ宅ヲ訪ハントシテ高橋ノ先マデ往キ、出逢ウテ共ニ帰ル。午後三時ヨリスクール・カウンスル、六時半ヨリサンボーン・ホテルニテ齊藤〔勇〕氏歓迎会ノ為〔H・F〕ウヅウオース氏ニヨバレニテ往ク。(後略)

九月十七日 土 晴 脈搏非常ニ烈シク休ミ、業ヲ終リエ午後寝ル。(後略)

九月二十四日 土 曇夜雨 午後総務部ニテ金受取り帰りテ庭球大会ヲ見ニ往ク。薄暑ニ迫リ且雨ノ中ニ試合ツバケテ関〔関西学院〕中〔学部〕優勝ス。是ハ僥倖ナルベシ。他ニ緊張シタルゲーム幾回モアリ。御影〔師範〕ハ今年勝テバ三回ニナルヲ以テ必勝ヲ期シ、多数ノ応援隊ヲツレテ来リ、弥次リタルガ、其ガ人々ノ反抗心ニ触レ、他ノ者ハ皆他ノ側ニ応援スルトイフヤウニナリ、四回戦ニテ市岡ニヤラレタリ。(後略)

九月二十五日 日 雨 講義ヲ書カネバナランノデ教会ヲヤスム。(後略)

九月二十七日 火 晴 夜文科一年ノ委員トイフモノ来

リ落第ガ落^(マ)ロシイカラ必須学科ノ数ヲ減スルヤウニ請願ヲスルカラト内容ヲ告ゲニ来ル。馬鹿ニツケル葉ナシ。デモクラシーナドトイフコトハ将来止メテ^(伏字)□□□ノ集ル学校デハ是トスル所ヲドシ、ヤツテ行カネバナラス。

九月二十八日 水 晴 二年ト一年委員トニ別々ニ会ウテヨク話ス。二年ハ形式バカリノ請願書ヲ出シタ。コレハ無理ナコトモナシ、形式モゴク穩カナモノデアルカラ〔H・F〕ウヅ〔ウオース〕氏ニ渡ス。(後略)

九月二十九日 木 晴 一年生全体ニ訓戒スル、要求ヲ撤去シタト聞ク。(後略)

九月三十日 金 晴 (前略) 午後啓明寮ト成全寮ト庭球ヲヤツテ居テ啓明コートデ高等部野球部練習ヲヤツテ居タ。(後略)

十月一日 土 晴、朝〔W・R〕ランバスノ遺骨神学部講堂ヘ入ルヲ途中デ送り、二時間目業ナシ。生徒ガ皆帰ッタノデ四時間目モ業ナクナル。午後総務会議ガアルトテ呼ニ来テ往テ返ル。帰路野球ヲ見ル、育英対中学部。(後略)

十月二日 日 晴 教会龜德〔一男〕氏ノ話。芸術トカ何トカ聞タクモナシ。(後略)

十月三日 (月) 晴 (前略) 其ヨリ〔W・R〕ランバ

ス氏ノ告別式ニテ式ノ間ガ丁度三時半カ、ル。木下春三、砂本貞吉、〈N・B・〉ケーンズ其他ヲ見ル、サレドモ物言ハズシテ帰ル。夜寿岳〈文章〉氏訪来。

十月五日 水 晴 二年ノ午後ノ時間ヲ繰上ゲテ午前二スマス。(後略)

十月六日 木 晴 朝礼拝ノ後時間トシテ神学一年ヲ休ム。五年ハ今日旅行ニ行キタレバ少シ暇ゾト思ウテ居ルト、午後スクール・カウンシルカラ呼びニ来テ行ク。例ノ如ク詰ラヌ相談ヲ聞カサレテ日暮マデカ、ル。香川稯吉死去ノ知ラセヲ受ク、可愛想ナコトヲシタリ。

十月七日 金 曇 今日ハ午前往カヌ日ヂヤガ八時半ニ〈W・R・〉ランバスノ遺骨ガ上海ヘ往クトイフノデ、ソレヲ送りニ往ク。門ノ前カラ自動車デ〈J・C・C・〉ニユー・トン、吉岡〈美国〉、ソレニ松本〈益吉〉、〈C・J・L・〉ペーツ、〈T・H・〉ヘーデンガ乗込ンデ往ツタ。中学部カラ日高〈重市〉氏ガ一中隊ホドツレテ来テ居タ。高等部カラモ体操ヲシテ居タ生徒ガドヤク来タ。午後香川〈稯吉〉ノ葬式ニ往ク積リデ出カケタガ靴ガ破レテ居タノデ門前カラ遙カニ札シテ式場マデハ往カズニ帰ツタ。早〈稲田〉大ト弓術ノ試合ヲヤツテ居タ。クロスゲームデヤツテ居タガ、遂ニ如何ナツタカ知ラン。(中略)今朝八時過三宮発ノ汽車デ〈村

上〉楨三(中五年)岐阜方面ヘ修学旅行ニ往ツタ。

十月八日 土 晴 (前略) 夜今晩カラマタ地方教育集会ガアルノデ見ニ行ク。印度ヤ広東辺ノ写真取交ゼ次ニ帰基督一代記ノ初ノ部分ノ幻燈、ソレカラカナダ道路ヲツクル有様ノ活動〈写真〉ガアツタ。説明ガ川島デ甚ダ拙イノミナラズ声ニ一種ノ厭感ヲ催サシムル或物ガアルノハ残念デアツタ。

十月九日 日 曇後晴 (前略) 〈村上〉楨三今朝帰ル、大疲レデ殆ド終日寝ル、(後略)

十月十日 月 晴 今日ヨリ時間割変リ三年ヲ午後ヤル、(後略)

十月十一日 火 晴 講堂定礎式。〈T・H・〉ヘーデン司会、不完全ナ而モ自分デハ天狗ノ日本語デヤル。〈C・J・L・〉ペーツ院長ガ隅ノ親石ヲ据エルコトヲヤツタ、(後略)

十月十二日 水 晴 午前九時ヨリ文科教室定礎式。〈H・F・〉ウヅウォース氏司会、〈W・K・〉マシウス祈祷、予聖書ヲ読ンデ松本〈益吉〉石ヲ置ク、〈C・J・L・〉ペーツノ短話アリ。ハミル館ニ帰ツテカラ菓子一包貰フ。永年ノ祈茲ニ此御答ヲ得テ感謝ニ耐ヘズ、昨日ノ式ヨリモ静肅ニシテ宜カリキ、蓋シ静肅ヲ破ルヤウナモノハ頭カラ来テ

居ラス故ナリ。(後略)

十月十三日 木 晴 午後スクール・カウンスルデヨビ出サレル。誠ニ詰ラス事ノ極ナリ。幸ニ何カノ集リガ後ニアルトイフノデ早ク済ム。(後略)

十月十四日 金 晴 (前略) 夜青年会ノ提灯行列、必ズ人ガ多カルマイト思ウタノデ往ク。果シテ十二三人シカナイ、高商ノモ其位、電車ノ所デ一緒ニナリテ西行加納町三丁目デ市青年会ト合併、始テ賑カニナル。楽隊入リデ一丁許ヅ、ノ元町カラ多聞通、有馬道ニ折レテ平野ニ往クガ荒田町カラ分レテ帰ル。他ノ者ハ啓明寮ノ演劇ニ往タ。馬鹿者ノ真似スル馬鹿ヲ馬鹿氣タ見ル馬鹿ラシヤ。(村上) 謙介帰ル。二度許啓明寮へ(村上) 八重ヲ呼びニ往キ右ノ歌ヲ思ヒツク。

十月十六日 日 晴 教会、婦人矯風会ノ依頼トテ松下(續雄)氏禁酒貞潔平和ニ就テ話ヲナス。(中略) 夜青年会ノサー・ジョージ・ウヰリヤムスノ百年記念、神戸教会全体ヲ借受ケ委任スルトイフノデ手伝ニ行ク。日本基督教教会ニ高商ノ松野一郎幸福者トイフ題ニテ話ス。関西ノ岡田猛雄トイフモノハ来ラズ。予内生命トイフ題ニテ話シテ帰ル。(後略)

十月十七日 月 晴 学院運動会日和ハヨシ。場内人ヲ

以テ埋ル。朝一寸往ツテ見タガ帰ツテ(村上) 八重ヲ見ニアリ留守番ス。(後略)

十月十八日 火 晴 授業何ノ差支モナシ。今日ニナツテ分ツタト見エテ松本(益吉)ナド大ニ休学不_レ必要論ヲ唱ヘテ居タ。然シ商科ガ学生ノ運動部ニ負ケテ十時カラ庭球ノ試合ヲ(慶応トノ)許シタノデ三時間以後ハ臨時ノ休トスル。ハミルカンノ窓外デ盛ニヤルノダカラ_(モ)逆モ室内ニ心ハ定マラス。(後略)

十月十九日 水 曇雨 朝内ケ崎作三郎氏₍₁₆₎来ル。商科講堂ニテ一時間余リ支那朝鮮ニ就テノホラヲ聞カサル。(後略)

十月二十一日 金 雨 (前略) 小沢(瀧)氏文科卒業生アリヤトイウテ見ユ。

十月二十二日 土 晴 (前略) 夜活動(写真)(地方教育集会ノ)ヲ見ニ往ク。印度ノ風俗、エスキモ_一モアツタ寡婦ノ焼カレル所、旧妻ヲ叩キダシテ新妻ヲ迎ヘル所、皆芝居デ出来テ居タ。日本ノ茶摘ミ、柔道、擊劍、劍舞モアツタ。次ノ巻ハ基督伝ノ芝居デアツタガ、フルウテヨク見エナ_一ンダ。

十月二十七日 木 晴 忙ガシキ課業ノ後留守番ガアタリテ何処ヘモ行カズ、試験ノ問題ヲツクル。(後略)

十月二十九日 土 雨 一学期ノ課業ヲ終ル。問題ヲ渡ス。(後略)

十月三十一日 月 晴 朝拝賀ニ往ク。神学部ノ生徒一人二人ハ居タカ、高等部ト合シテ二十人モ居ザルベシ。運動場デハ鉄工場ガ野球ノ優勝試合ヲヤツテ居タ。(後略)

十一月一日 火 晴 シグレ 試験始マル。(後略)

十一月二日 水 晴 四年社会科(H・G・)バーネット教授ノ試験ニ白紙ヲ出シタリト午後教師会議日暮マデカ、ル。国史大系ヲ学校ニ買入レタリ、白雲堂ヨリ。

十一月五日 土 晴 (前略) 夜関西ノ幻燈ニ往ク。米國ノ風景ト活動(写真)ハ欧州戦乱実写ニテ得難キフヤルムナリ、三巻見ル。

十一月六日 日 晴クモリ 教会松下(續雄)氏ノ話。(後略)

十一月七日 月 晴 シグレ 午前湯ニ往ク。学校ニ出デズ。景教講演ノ原稿ヲ書キテ夜ニ入ル。半分モ了ラズ。夜服藥シテ寝タルガ二時間シカ睡ラズ。

十一月九日 水 晴 シグレ 明日ノ講義ヲ少シ書ク。午後大日通辺ヲ散歩ス。雨ニ降ラレテカヘル。心臓鼓動早く糠精ヲ買フ。夜安宅ヲ謠フ。

十一月十日 木 晴 学院ノ業始ル。但シ商科ガ今日休

ミトイフノデ教授皆欠席。一年ヲ教ヘタレドモ五時間ハ誰も居ス。神学部ハ式ダケニテ業ナシ。(後略)

十一月十二日 土 晴 (前略) 夜学院ノ活動(写真)ヘ往ク、二巻アツタケ。

十一月十三日 日 晴 朝教会、松下(續雄)氏ノ説教。夜ハ平和宣伝ノ幻燈アリテ往ク。欧州戦争ノ活動(写真)四巻觀ル。松本(益吉)ノ話ハ不出来。

十一月十八日 金 雨 朝六時半ニ阪急デ立ツト云フ定メデアツタガ、(C・J・L・)ペーヅ、(H・G・)バーネットガ遅レタルヨリ、七時ニ出ル。畑(歎三)氏、福田(順一)、一安(詔)同行、大阪ニテ木村(巳之吉)、八田(昇岳)、大石(兵太郎)ト合併、汐見橋ニ出タガ、長野以南ガ停電シテ居ルノデ切符ヲ売ラズ。開通ノ見込モ立タザルヨリ湊町ニ引返シ汽車ニ乗ル。高野口カラ推出マデ自動車、其カラ(H・G・)バルネットガ「チェアー」、畑(歎三)氏ガカゴデ、他ハ一同徒歩、高野カラ此処マデ二人迎ヘニ来テ居ル人ト共ニ往ク。迎ノ人ハ途中ノ茶屋ニ又二人女人堂ノ所ニ一群、教師連中モアツタ、而シテ宝城院ニ泊リ湯ニ入ル。

十一月十九日 土 晴 朝三十五度ト云フ。金堂ヲ見テ(高野山)大学ニ至リ講演。⁽¹⁸⁾ 午食ヲ管長ノ招キニヨリ

金剛峰寺ノ奥書院ニテ喫フ。午後宝物館ヲ觀、ソレカラ奥ノ院ニ至リ、野本ト云フ人ニ面会、歸リテ歡迎会、ソノ後デ懇談会ガアッタ。

十一月二十日 日 晴 朝大師堂ニ赴キ一般講演。⁽¹⁹⁾ソレカラ中途デ歸リ午食ノ後〈C・J・L・〉^{ペー}ツ、〈H・G・〉^{バー}ネット、氏ト共ニ多クノ人々ニ送ラレツ、下山、

推出ヨリ車、高野口ヨリ電車線ニテ十時前ニ帰宅ス。(後略)

十一月二十一日 月 雨 学院ニ出デ午後スクール・カウンスルアリシガ出席セズ。東洋史ノ講義ヲ書ク。

十一月二十五日 金 曇 総務部ヨリ金貰フ。景教碑ノ論文ヲ書クデ忙ガシ。(後略)

十一月二十七日 日 晴 感謝祝賀祭ニテ大人ノ集ナシ。西村熊次郎氏(本年商科卒業生辰馬銀行トアリ)來訪、聴講生入学ノコトヲ談サル。(後略)

十二月二十九日 火 晴曇、午後〈C・J・L・〉^{ペー}ツ氏、松本〈益吉〉氏ノ宗教談アリシガ往カズ。

十一月三十日 水 晴曇 午後教師会議アリ。辻ノ事、假入学生ノ事、其他一二ノ件ヲ議ス。次デ総務会議アリシガ往カズ。唐景教考ヲ書ル。

十二月一日 木 晴 昨日湯ニ往カザリシヲ以テ今日急イデ往ク。原稿用紙ヲ買ウテ來テ景教考ヲ写シ始メル。

十二月四日 日 晴 朝三時カラ〈村上〉楨三徒歩神戸駅ニ赴キ岡山新聞主催ノ雄弁大会ニ往ク。夜マタ晚クナリ、兵庫止リノ汽車ニテ二時半歩シテ歸ル。教会松下〈續雄〉氏、夜幻燈会〈村上〉醇造行ク。寄稿ノ論文ヲ書クノデ俗事ニ此日ヲ消ス。

十二月五日 月 曇 冷氣甚シ、朝講堂ニテ基督教ハ憂スルニアラズ、愛ノ人トナルニアリト云フ題ニテ話ス。(後略)

十二月八日 木 晴 午後^(伏字)□□ト^(伏字)□□ニ退学ヲ諭示ス。可愛想ナコトナリ。□□ハ來ラズ。

十二月十日 土 曇 (前略) 夜関西ヘ活動〈写真〉ヲ見ニ往ク。停電デ到々出來ズ。書生ノオ伽話ヲ二ツ三ツ聞カサレテ歸ル。皆下手。

十二月十一日 日 曇 教会松下〈續雄〉氏。(後略)

十二月十二日 月 曇 午前福井宗五郎ノ兄トイフ人尋ネ來リ。四時間目ノ課業少シ妨ゲラル。岩井ヨリ(中略)天井落ノ見舞ヤラ云ウテ來ル。

十二月十三日 火 晴 朝突然講堂ノ話サセラレタ。太三ノ十五ニツイテ、自由ノ神ハ規律ヲ捨テタマハズ、自制默々トシテ規則ニ從ツテ修ムルコトノ大切ナルコト、今日ノ小成的の自慢ハ大ニ前途憂フベキモノデアルコトヲ話ス。

萬安ノ話ヲスル。(中略) 景教考ヲ書了ル。(後略)

十二月十五日 木 晴 午後三時カラ^(休)□、^(休)□ノ件ニツキ教師會議。夜ニ入ル。暗黒ノ中デ暫クヤル。未決ニシテ河上〈丈太郎〉氏ニ、モ一度本人等ニ当ツテモラフコトニシテ分レル。〈H・F・ウツ〉〈ウオース〉ガ国情ニ通ゼズ、畑〈歛三〉ガ其妙ナ頭デ一図ニ処分セウトイウテ居タノデ一寸困ツタ。(後略)

十二月十六日 金 曇 午後一時ヨリ夜学校委員會、二時カラト思ウテ往クト其次第、今マデ待ツタガ誰モ来シノデ延期シタトイフ。三時カラスクール・カウンシル、是ハ失敬シテ帰ル。(後略)

十二月十八日 日 晴 教会、〈C・J・L・〉ペーツ氏例ノ信仰三階段ノ話ヲスル。ビリーフ、トラス、フエイ、其後洗礼式ト晚餐會アリシモ帰ル。家ニハ留守居ナリ、此頃ハ困ル。

十二月十九日 月 晴 唐景教考ヲ八田〈昇岳〉ニ渡ス。(後略)

十二月二十日 火 晴 二時間目休ノ処ヘ川田尋ネテ来ル。大学連絡等ノコトニツキ話ス。神学生クリスマス故休ンデクレヨト云ウテ来ル。午後二時半ヨリ夜学校委員會ト云フモノアリテ往ク。要スルニ馬鹿氣タ計画ナリ。懸案ニ

シテ預ツテ置クト云フコトニシテ分レル。(後略)

十二月二十二日 木 晴、夜教会クリスマス、予留守番シテ皆ニ往カス、〈村上〉楨三往カズ。

十二月二十三日 金 晴 今日ニテ授業終ル。クリスマス、二十円貰フ。(後略)

十二月二十四日 土 雨 夜ハミル館、クリスマス。(後略)

十二月二十五日 日 晴 教会松下〈續雄〉氏、クリスマス、話ヲスル。(後略)

大正十一年

一月一日 日 晴 昨夜カラ降り出シテ二時過マデハ盛デアツタ雨モ夜ノ明ケルト共ニ晴レ旭光照波ノ勅題ハ無意義トナルヲ免レタ。難有イモノデヤ。(中略) 大洋ハ只一面ノ初日カナ。太平洋ハ日本ノモノデヤ。九時カラ拝賀式、壇ノ上ニハ賢サウニスル人ガズラリト並ンデ居ル。説教ハ松本〈益吉〉、徹頭徹尾支離滅裂、ソレニ大分誤解モ交ツテ居ル話。オマケニ朝日ノ社説ハ換骨脱胎ト云フ奴ヲ元氣ヨクヤツテ賢サウニスル人々ニ感心セラレタラウ。本氣デ恥辱ヲサラス勇氣ガナケレバ関西ノ幹部ニハタ、レス、(後略)

一月六日 金 晴 午後湯カラ帰ッテ三宅（嘉策）氏ヲ

尋ネタガ小久保ニ往ッテ不在。囲碁デアラウガ呑気ナモノ
ヂヤ。此忙ガシイ世ノ中ニ斯イフ生活ガ出来ルノハ羨シイ。
ソレカラ堀（峯橋）氏ヲ訪フ。風引イテ寝テ居タガ今鬚ヲ
剃ッテ来タ所ト云フ。倍加伝道ト云フ標榜、近代ノ非福音
的説教ニ就テ非難スル。同氏モ同感。神学生ナドニ説教サ
スト彼等教会青年ガト云フヤウナコトヲ云ヒ、自ラ教会外
ニ立チテ居ルモノトシテ批判的態度ノ説教ヲヤルト云フヤ
ウナ話モアッタ。（後略）

一月九日 月 雨 文学部課業始ル。礼拝ノ折ヲスル。

心臓ノ工合悪ク午後解熱剤ヲ服シテ休養ス。（後略）

一月十日 火 午後曇 神学部始業式、課業ナシ。（後略）

一月十一日 水 晴 教師休ム人多シ。午後ノ三年ヲ三
時間ニ繰上ゲル。（後略）

一月十三日 金 晴 （前略）講堂デ元氣ヲ養ヘト云フ
趣意ニツイテ話ス。新年雑感ノ中ナリ。

一月十五日 日 午後雨 （前略）其カラ教会ニ往ク。
松下（續雄）君ノ話例ノ如シ。此風ノ講義デハ教会制度ハ
止メテ日曜毎ニ信者ハ自由ニ氣ニ入ッタ会堂ニ集リテ安息
日ヲ守ルヤウニセネバ満足ハアルマイ。而シテ幾個デモ分
裂シテ信仰団体ノ組ノヤウナモノヲツクルノヂヤ。（後略）

一月十七日 火 晴曇 （前略）山高・八田（昇岳）二
氏訪来。聖霊集抄一部寄贈セラル。（後略）

一月十八日 水 曇 朝起キテ見ルト雪ガ一面ニ降ッテ
居ル。三分位アラウカ、鬚ヲ剃ラウト思ウテ居ルトコロヘ
柴野（秀夫）氏ガ呼びニ来テ行ク。（H・F・）ウヅウオー
ス氏ノ留守デ礼拝ノ司会ヲスル、（後略）

一月二十一日 土 晴 冷氣昨日ニ同ジ。チャペルデ菊
池（七郎）氏種々嫌ヒナモノガアルガ日本人ガ最モ嫌ヒ
ヂヤ。ソレハ日本人ガ信用出来ヌ人民デアルカラヂヤ、自
分ハ米國ニ何年、支那ニ何年トカ居タガ、三国ノ中日本人
ガ一番悪イトカ、神崎（驥一）サンノ友達ガ日本人ハ亡ビ
ルトイウタトカ、救世軍式ニ種々暴言ヲ吐イテ、キリスト
ヲ信ゼヌカラヂヤト云ウタ。商科ノ教授ノ頭ノ低イコトガ
是デ分ル。午後中部ノ弁論大会ヘ往クト種々アッテ、松
本（益吉）副院長ガ又日本人道德ノ劣ッテ居ルコトヲ云ウ
テ、東西ノ思想ヲ融合スル位置ニアルモノハ日本人ヂヤト
云フ古イコトヲ云ウテ結ンダ。三時カラ鵜崎（康午郎）ノ
話ヲ神学部図書館デ聞カサレルト云フノデアルガ（中略）
歸ッテ湯ニ往ク。

一月二十四日 火 晴後曇 神学一年ノ漢文ヲ休ム。（後
略）

一月二十五日 水 晴 (前略) 文学部教師休ム人多ク
午後ノ時間繰上ゲ午前ニス。三日目ニ湯ニ往ク。夕刻小
野(善太郎)氏来訪。(後略)

一月二十六日 木 晴 三時間目ノ休ニ中学部ヲ尋ネ田
中(義弘)氏ニ逢フ。四時間ノ後商科チャペルニ小野(善
太郎)氏ヲ訪フ。午後総務部ニテ金受取ル。

一月二十七日 金 晴 学生会ノ集合ヲ商科チャペルデ
ヤッタト聞クガ四時授業ノ際ニハ皆帰ツテ居タ。(後略)

一月二十九日 日 晴 教会デ小野(善太郎)氏ノ説教
ヲ聞ク。珍シク信仰ノ活氣ニ触レタヤウナ氣ガシタ。夜(H:
F・ウヅ(ウォース)氏宅ノ集リニ往ク。誰モ来ヌデ帰ル。

一月三十一日 火 晴 午後総務会議アリ。三時カラ顔
出ス。卒業式ノコト等相談アリ。午前文学会ノ役員選挙ヲ
礼拝ノ後デヤッタ。

二月一日 水 晴 時間繰上ゲ午前ニ済ム、午後三日目
ニ湯ニ往ク、夜小鍛冶ヲ謡フ。

二月二日 木 雨 朝神学部ノチャペルヘ出テ見ル。窪
田(学三)氏米国ノ労働者ガ人並ノ者ノヤウニ思ウテ働イ
テ居タガ、同胞ノ顔ヲ見テ自分モアンナ顔ヲシテ居ルノカ
ト思ウテ嫌ニナツタト云フ話ガアル。イエスガサタンヨ
退ケヨト言ハレタノハ自分ノ中ニ迷ガアッタ誘惑ガアッタ、

ソレヲ偶ニペテロノ口カラ聞カレテ恐ロシト思ハレタノデ
アノ声ガ出タ、救世軍ガ人ニ悔改ヲ勸メテ居ルノヲ聞イ
テ、ア奴自分ノ罪ニ因ンデ居ルカラ人ニ向テ悔改メヲ勸メ
ルト批評シテ通ツタモノガアッタト云フヤウナ話ヲシテ居
タ。是デハ神学部容易ニ今ノ悪状態カラ改善サレマイ。午
後三時カラ教授会ガアツテ往ク。試験時日等ノコトヲ決定
ス。四年二月廿一日―五日、其他三月十三―十八日、卒業
式ハ三月二十日。

二月三日 金 雨 午後二時カラ夜学校ノ会議ニ出ル。
見合セト云フコトニ決定シテ帰ル。是デ此方ノ年ガ明ク。
管ラヌ会議デ手間ヲトラレルニハ閉口。(後略)

二月四日 土 半晴 理髪ヲシテ湯ニ往ク。案外何モ出
来ナンダ。今夜モ語学大会アリシガ往カズ。

二月八日 水 雨 礼拝時間ニ出テ行クト突然話ヲサセ
ラレル。汝我ニ何ヲ為サシメントシタマフヤト云フパウロ
ノ言ニツイテ半分程話ス。是ニハ一番困ル。(後略)

二月九日 木 雨、山縣(有朋)ノ国葬、休業ニハナラ
ナンダガ、諸学校デハ業ヲ休ンダ。関西ハ平日通りニヤッ
タラシイ。不統一ノ国体デ妙ナ風ニナツテ居ル。(後略)

二月十一日 土 雨 紀元節ノ祝賀ニ出タガガタク不
整理デ氣持悪ク三百人シカ入ラレン高商部ノチャペルニ中

学部ノ生徒八百人ヲ詰込シテ席モナク帰ル。教授会ノ不統一ミンナガ思ヒノコトヲシテ居ルノハ見苦シイ。

(後略)

二月十二日 日 晴 ハミル館、教会松本(益吉)氏説教、終ノ方ヲ一寸聞ク、(後略)

二月十三日 月 曇 夜学生会ノ催デ杏香楼デ支那料理ヲ食フ。風邪ノ氣ガアツテ如何セウカト思ウタガ、毎モ休ムノデ解熱劑ヲ服シテ歩イテ行ク。新田委員ノ歓迎迎ト云フ所デアツテ、木村(巳之吉)ガ青年会代表ニ選バレタ話ヲヤル。今朝モチャペルデヤツタ。其カラ又箸ト杯ノ芸当モヤツタ。

二月十四日 火 曇 風ニ到々ヤラレタト見エ、頭痛ミ肩痛ミ字モ本モ読メズ。例ノ運動ニ出カケテ見タガ脚ガ倦ルクテ歩クコトガ出来ンノデ引返シテ床ニ就ク。熱七度四分、朝ハ余程快カッタノデ学校ヘ出カケタガ矢ッ張り往カナンダ。

二月十五日 水 曇 チャペルデ話ヲスル。前週ニ続イテパウロ改宗ノ所ヲ少シク話ス。午後ジョフル元師大阪ヨリ四時五分神戸駅着ノ汽車ニテ来神。オリエンタルホテルニ泊ル。其ヲ迎ヘテ万歳ヲ言ヒニ往クノデアッタガ、予ハ風邪デ失敬スル。

二月十六日 木 雨 文学部ニ相談ガアルト云ウタカラ出テ往キ、神学ニ往キ又文学部ニ帰り、又神学ニ往ク。煩サクテ甚ダ不愉快ナ日デアッタ。八田(昇岳)ノ推挙、今泉(隼雄)ノ推挙、四年試験ノコト等スマス。(後略)

二月十七日 金 晴 木村(巳之吉)生最後ノ話ヲスル。学院ニ七年居タリ。其間神学部ニ於テ小野(善太郎)、青木(澄十郎)、村上(博輔)先生ヨリ、文科ニ来テ更ニ河上(丈太郎)先生ヨリ特ニ大ナルモノヲ受ケタト云フニアリ。又種々ノ人ガ大ナル給料ヲ以テ職業ニ誘フモノガアルガ、予ハ常ニ初ノ志ハ何デアッタカト問ヒ其ヲ離レズト云ウテ、心ノ如ク生キンコトヲ勸メタ。是ガ活キタル話デア(後略)

二月十八日 土 半晴 今日課業ナケレドモ大阪ニ居ル某ト云フ英國人チャペルデ話スト云フノデ往ク。但シ(H・F・)ウヅ(ウオース)氏ガ東京ヘ往ク筈デアッタノヲ止メタカラ出席ニ及バナシタノデアアルコトヲ往テカラ知ツタ。(後略)

二月二十日 月 午後雨 午後湯ニ往キタルノミ。夜岩井定一氏ニ帝大入学問合セノ返事ヲ出ス。畑(敏三)氏今日カラ学校ヘ出ル。細君ノ風邪ト云フノデ治ルマデ看護ヲシテ自由ニ休ム三週間デアラウ。但シ月給ハ皆貰フノデア

ル。

二月二十三日 木 曇 午後スクール・カウンシルアリテ往ク。詰ラヌコト二人ヲ集メテ時間ヲ取ル。勝手ニ定メテ意見ヲ徹シテ廻ル方ガヨカラウニ、帰路林氏ト共ニ講堂ヲ見ル。(後略)

二月二十四日 金 曇 〈H・F・〉ウヅ〈ウオース〉氏東京へ往キチャベルヲ代ル。畑〈歛三〉氏メレーノ事ヲ話ス。後佐藤〈清〉氏ヲ訪フ。(中略) 夜^候□□氏退学ノ余儀ナキニ至レリ。(家事上) トテ菓子箱モチ礼ニ来ル。気ノ毒ノコトナリ。

二月二十五日 土 半晴 朝チャベルデ話ラスル。ランバスノ襟^襟ピン年ノ字ノコトニ就キ希望ト自信トノ話ラスル。神学生ノ謝恩会デ昼飯すき焼ヲ饗バレル。羅〈樞建〉ノ話ニ我々が出世シテ大ナルモノトナレバナルホド、師ノ恩ハ大キイト云フタノハヨイ誠ヂヤ。師バカリデナイ、親ニ対シテモ我々ハ兎角之ヲ眼中ニ留メザラントスル傾ガアル。自ラ賢クナルト弥々之ヲ小トスル。ケレドモソレハ大ニ過ツテ居ル感情ト思フ。干柿ノ半乾キデ止メタモノヲ食フ。非常ニ甘カッタ。何処デ出来タルカト云フタラ、東ノ人ガ西へ行ツテ、西カラ送ツタト云フノヲ東カラ送ツテ貰ウタノヂヤカラ分ラント云フ。(後略)

二月二十六日 日 曇小雨 朝ハミル館日曜学校ニ覗イテ見ル。礼拝松下〈續雄〉氏、祈祷日ニ就テ祈祷ノ話ヲスル。夜ハミル館活動〈写真〉へ往キテ見ル。幻燈天路歷程、活動バリト関西学院化学教室デ〈村上〉楨三ガヨク映ツテ居ル。予モ教師ノ部デ映ツテ居ル。(後略)

二月二十七日 月 半晴 午後教師会議ヲ開ク。点数等未済ノ人アリテ延期ス。朝織田〈信雄〉生訪ネ来リ長春ニテ会ヒシ同氏ノ叔母サンヨリトテ鶏ノ油煎一匹ヲ貰フ。近頃来神トノコトナシ。

二月二十八日 火 晴 朝一時間業アリテ礼拝後写真ヲ撮リ、其ヨリサンボーン・ホテルへ至リ文学会送別会。突然祝辞ヲノベルコトニシテ張出サレテアッタノニハ困ル。耳聾シ声出ズ。会ハ兎ニ角充実シタル会ナリキ。辻野〈清〉ノ朝鮮歌、一年生ノ素盞雄劇ヨク出来タ(筋書ハ改ルヲ要ス)。福引ニホーカー液ヲ貰フ。二百十日モ無事ニ過ギテアレ知ラズト云フナリ、頭少シ悪クナル。(後略)

三月一日(水) 曇 授業午前二繰上ゲ午後宝塚ノ教役者会へ往ク。神戸辺デ聞クト教会ハ全然信仰ヲ失ヒテ、詰ラン理屈バカリヲコネクル詰ラン所ニナツタヤウニ思ハレルノデ此会モ定メテ殺風景ナモノトナツタデアラウト思ヒノ外来テ見ルト二十年前ノ集会ト少シモ変ツタ所ハナイ。其

時云ウタ同ジヤウナコトヲ、今モ人々ガ繰返シテ居ルノハ一面コレデ、行詰ツタ所ニモ見エルガ、下手ニ理屈ガルヨリハ危険ガナウテ面白イ。鵜崎(庚午郎)ガ大僧正デ松本(益吉)ガ阿闍梨、其下ニ一段下ツタ行人共ヂヤカラ是以上ノコトハ望マレヌ。(後略)

三月二日 木 晴 朝チャペルヲ頼マレテ話ヲスル。ポーロノ真似ヲスケワハ出来ズ。二重生命ノアルト云フ古代信仰ハ或点ヨク云ヘバ真理ナリ。此内ノ生命ガ人間ノ価値ト成功、否其人ノ幸福ヲモ定ムルモノナレバ人ハ常ニ之ヲ不問ニ置クガ大ニ注意セザルベカラズ、其修養ノ道ハ即チ信仰デアルト話ス。夜サンボーン・ホテルニテ謝恩会アリ、先日ト同ジ料理ナリ。其後第二次会アリ、人ノ穴サガシヤ福引ヲヤル、籤ヲ二本貰フ。一本ハ汽車時間表、一本ハ赤ネルノ切ヲ赤毛布切ニ擬シタルモノ畑(歛三)先生ノ金曜日、京上リトハ如何。

三月三日 金 曇 朝歴史ガ済ミテ商科ノチャペル、次ニ国文ノ繰上ゲ三時間続イテ頭ガ悪クナル、帰リテ休ム。(後略)

三月四日 土 曇 課業ナレドモチャペルニ出ル。岸波(常蔵)氏始下分ヲヌコトヲ話ス。(後略)

三月五日 日 晴 朝礼拝元吉(潔)氏。信仰ニ就イテ

ト云ウタガ筋ノ分ラン話ヲスル。然シ田舎者ダケニ新シイカブレガ少イ。(後略)

三月七日 火 晴 一年歴史終ル。午後教師会議アリ、日暮レテ帰ル。(後略)

三月八日 水 晴 文科ノ方ノ課業今日済ム。金曜日ノ朝一年歴史試験ヲ行ルコトニセリ。(後略)

三月十日 金 雨 (前略) 文学部授業終ル。朝一年歴史ヲ今日試験ス。二年ノ国文ヲ休ム。(後略)

三月十二日 日 晴 朝教会松下(續雄)氏ノ話。(後略)

三月十三日 月 雨 試験始マル。三年漢文ヲ試験スル。午後神学部図書館デ親睦会ノ第一回ト云フノヲ聞イテ、ファカルチー、クラブト名ヲ付ケタ。(C・J・L・ベーツ)ガ支那人カラ吹込マレテ来テ大ニ日本反対ノ氣焰ヲ取次イダ(最モ月並ナ説)ノデ反駁ヲヤル。日本ト支那トハ容易ク親睦ガ出来ルガ、外国ガ入テ来ルト駄目ヂヤ。支那ノクリスチャンノ中ニハ俗物ガ沢山居ル。彼等ハ決シテ日本人ヲ考ヘルヤウニハ考ヘラレヌ。

三月十四日 火 晴 一年内田(一二四)英語リーザングノ時間ニカロールノ訳本ヲ持ツテ居タト云フノデ(H・G・バーネット)ガ試験ヲ差止メテ来タ。ソレヲ(H・F・ウヅ)「ウオース」ガ成ルベク重刑ニ処シタイト云フノデ相談

会ヲ開キ一議論ヤリカケタガ、本人ガ落第ヲ希望スルカラ、此後試験ヘ出テ来マイト云フ畑〈歛三〉氏ノ謹言デ事ガ纏ル。午後河上〈丈太郎〉・佐藤〈清〉・吉岡〈美国〉氏ヲ訪問スル。(後略)

三月十五日 水 晴 一年漢文ノ試験ヲスル。午後湯ヨリ帰り採点シ居タルガ余リネムク火燵ヲ作り寝ル。起キタトキ少シク咯血スル。ソレデ又休ミ込ム。近年少シモ此ノ如キコトナシ。然ルニ昨日学校ニ於テ同ジ程ノ咯血ヲヤル。其マ、ニシテ止リタリ、今日モ其候ニシテ止ミタルガ原因不明。

三月十六日 木 晴 朝アルバムニ入レル写真ヲ撮シテクレヨト云フノ洋服ヲ着テ行ク。午後火燵デ採点シ、少シクネムリテ起キルト又昨日ホドノ咯血ヲスル。床ヲ取ツテ寝込ム。(後略)

三月十七日 金 晴 朝二年国語ト神学一年漢文トノ試験アリテ行キ、帰リテ又床ニ就ク。昨日再試験ノ^(欠)落第ト云フコトヲ聞ク。是ニ就キ河上〈丈太郎〉氏来訪。午後卒業生ノ名ヲ印刷ニヤルカラ、優等生アラバ知ラシテクレヨト云ウテ来ル。優等生ハナイガ印刷ト云フノ^(欠)コトハ如何ナツタカ尚一応調べニ行ク。但シ点数四十点、前学期十点ニテ仕方ガナイト云フ。^(欠)ノ方ハ前学期二十五

点ノ所ヘ今回五十五点ヲ得タト云フ。兎ニ角仕方ガナイ、夜ニ入りテ佐藤〈清〉氏来訪。(後略)

三月十八日 土 晴 朝二年漢文試験、ソレデ皆済ム。点ヲ取りテ芝野^(マヤ)〈秀夫〉氏ニ渡ス。其時間ニ芝野^(マヤ)〈秀夫〉氏何処ヘカ出テ往キ帰ラレハセズ、所ヘ又入学願書ヲモテ来タ奴ガアツタガ帳簿等ガ分ランノデ扱ヒガ出来ズ困ツテ居タ所ヘヤット先生帰ツテ来タノデ予モ返ル。(後略)

三月十九日 日 晴 (前略) 帰ツテカラ卒業説教ニ往ク。(S・H・)ウエンライト説教ノ途中デアッタ。劇場ノヤウナ立派ナ会堂⁽²⁴⁾チャ。

三月二十日 月 晴 午前十時ヨリ関西学院卒業式。⁽²⁵⁾祈祷ノ役ニ当ル。卒業者ノ姓名ヲ読ム。安部磯雄氏ノ講演。(村上)楨三今日中学校ヲ卒業スル。式ノ中途水雨降ル。他ノ地方ニハ所々風害ヲ被レルモノ後ニ新聞紙ニテ見ル。午後総務ニ往キ金貰フ。

三月二十二日 水 晴 成績調べニテ登校。(C・J・L・)ベーツ氏ノ宅ニ於テ誰ヤラノ講演アリト云フ通知ヲ受ケシガ往カズ。午後点数ノコトニテ教師ノ宅ヲ訪問スルコトニ軒。(後略)

三月二十三日 (木) 晴、午後曇、夜ニ入り雨風トナル。九時ヨリ教授会。昼飯ヲ牛肉デ学生会館デ饗バレ、午後新

校舎ノ内部ヲ觀、其ヨリ成績發表ヲ済シテ歸ル。落第者三年杜一、二年文一、一年六名。其他欠席者ハ落第多シ。夜実生（穰二）ト他二一人安原（緒之助）ノタメニ運動ニ來ル。三月二十四日 金 曇 東風烈シ。午後安原（緒之助）進級ノ件ニ就キ、大朝ノ後藤為一ト云フ人來ル。夜箱木ノ奥サン礼ニ來ル。

三月二十七日 土 ^(マ)晴後曇 中学部入学試験始ル。志願者千七十名トカ。一寸往キテ觀ル。真鍋（由郎）氏ニ松下（續雄）ノ祝会ニ^マ渡ス。〔H・F・〕ウヅ（ウォース）氏ニ逢ウテ三宅ノ話ヲ為ル。ハミル館ヘ往キテ觀ル。（後略）

三月二十八日 火 晴 午前校内ヲ一巡シテ來ル。中学部ノ入学試験ヲヤツテ居ル。山高帽風ニ飛ンデ神社ノ庭ニ落チル。取テ被ツテ石垣ヲ上ツタ所デアルバムノ写真ヲ取テ廻ル村井（種一）、網谷（繁雄）、織田（信雄）ニ逢フ。午後二時カラスクール・カウンスル例ノ誠ニ詰ヲヌ相談ニ呼寄セラレル。商科成績発表、青イ顔シテ歸ル奴モアツタ。（後略）

三月二十九日 水 晴 皇后陛下今朝八時四十五分須磨發ニテ後還啓アリ、皆々送拝ニ行ク。午後湯カラ歸リ試験問題ヲ書キ持行キテ校庭ヲ一巡シテカヘル。（後略）

三月三十日 木 曇雨 畑（歆三）氏ノ手紙（問題）來

リ柴野（秀夫）氏ニモ行ク。（後略）

三月三十一日 金 曇 午前學校ヘ往テ見ル。午後湯ニ往ク。歸リタルトキ種々ノ用事重ナリ學校ニ出テ歸ル。熱八度二分アリ、解熱劑ヲ飲ム。夜八度五分マデ上ル。試験問題ヲ柴野（秀夫）氏ニ渡ス。（後略）

【注】

- （1）明治一四年（一八八一）～昭和二一（一九四六）。教育者。京都府に生まれる。東京高等師範學校卒業。明治三八年、兵庫縣御影師範學校博物科担当教諭として着任、同時に官立の神戸高等商業學校の講師を兼ねる。のち明石女子師範學校の教頭に転じ、大正一五年（一九二六）、市立西宮高等女學校校長となつた。（中略）兵庫縣博物学会會長をつとめ、また県から天然記念物調査委員・理科視學委員を委嘱されるなど、生物學者としての活動も見逃すことができない。（中略）著書に『六甲摩耶山植物目錄』（兵庫縣教育會、昭和二二年）、『六甲の植物』（新居書房、昭和一九年）がある。（兵庫縣大百科事典下巻）神戸新聞出版センター、一九八三年一〇月一日、二二〇三頁。

- （2）時実佐平については、『開校四十年記念関西学院史』（一九二九年）に記述がある。「時実佐平は岡山県邑久

郡長浜村の人なり。慶応三年七月六日出生。年少軍務に服し、明治二十二年五月陸軍教導団歩兵科を卒業す。また戸山学校に於て剣術を修む。日清日露の両役に従ひ、屢々重傷を負ひ、功績拔群なり。官歩兵大尉に進み、従六位に叙せられ、勲六等功五級を賜はる。明治三十五年以来育英の事に従ひ、大阪北野中学校等を経て学院に入り、高等学部教授を担任す。爾来学校教練実施の日まで、単身局に当り、頗る心身を勞せらる當時学院高等学部にはなほ一個の兵器だにあるなし。然るに現在に於ては、二百挺の銃器附属具其他を有し、ほぼ教練実施に充分なり。これもとより、初代教官古賀用六等の尽力による処最も大なりと雖も、時実教授の其間に於て奔走せし功績また少からざるべし。教授老来意気盛々揚がり、鋭鋒避くべからざりしが、昭和四年八月二十四日腦溢血のため、突如として逝けり。学院史編纂の任特に終らんとして、またこの報に接す。悲しい哉。(付録三三―三四頁)。

(3) 『教界時報』(第一五七九号、一九二二年)に「昨年四月よりアウトブリツヂ教授を中心として開始した地方教育集会は今尚毎土曜日夜開催し良き結果を納めてゐる、会衆は大抵児童であつて非常に盛会である、時々、大人のために講演会を開き学院諸教授がそのために講演されている。」とある。(八頁)。

(4) 内藤憲隆については、『文学部回顧』(文学会編集部、一九三一年)に記述がある。「三年から京大へ移った内藤憲隆君は大石教授の妹婿、今育英商業学校の先生で法学士、内藤君は健康法をよくやった。腹で呼吸したり座禅を組んだり……それを君の教授で皆よく一緒にやらせられたといふ事である。(寿岳氏談)」五六頁。大塩彦治郎については、『文学部回顧』(文学会編集部、一九三一年)に「四年間チャベルのピアノを弾いた大塩彦治郎君。」との記述がある。四〇頁。

(6) 栄町通二丁目にあつた横浜正金銀行神戸支店のこと。

(7) 『関西学院学報』(第一号、一九二二年七月二十五日)に「從來学院一事の欠陥は露天集合の外には学院全体の職員教授、学生々徒を一処に会合せしむべき場所なきより、切実に其必要を感じ居たりしに、今回愈々之れが築造に着手し、学院内大運動場の西神学部寄宿舎成全寮の前面に位地を選定し、六月十一日午前九時ベーツ学院長司会の下に基礎発掘式を挙行し松下礼拝主事の聖書朗読、田中々学部長の祈祷、松本副院長の簡單なる演説の後吉岡名誉院長第一の鋤を執り、ニュートン前院長第二の鋤を用ひ、それより各教師、学生々徒代表者、請負人及技師等順次鋤を執つて土を起し式を終れり。蓋し本大講堂はスレート葺二階建煉瓦造にして、地下室あり、坪数二百三十八、一千六百の席を備へ、院長室、

秘書室等之れに属し、価格約十二万円を要す。而して本年末落成の予定なれば竣功の上は卒業式其他講演等の時のみならず、学院全般の職員教授、学生々徒毎朝一堂に集まり礼拝、訓示、報告等を行ふことを得て教育上尠からざる利益を享受すると共に又一個の偉觀を添ふるなるべし。」とある。(一頁)。

(8)『関西学院学报』(第一号、一九二二年七月二十五日)に「旧文科商科に併用したる旧高等学部の校舎は高等商業学部の占用に帰せしめて尚不足の状態に在るを以て日曜学校教師養成の目的を以て建築せられたる校庭内のハミル館を使用して文学部臨時教室に当て、焦眉の急に備へあるも、ハミル館の便益はハミル館に返さざる可らず。茲に於てか文学部校舎新築の機運愈々熟し六月十三日朝九時、予て選定せられたる神学部四方の位地に於て基礎発掘式を執行したり。

ウツウオールス部長式を司り、岸波教授聖書朗読、ベーツ院長村上教授の演説の後部長の挨拶及奨励ありてニュートン前院長第一の鋤を執り、吉岡名誉院長、ベーツ院長、松本副院長、文学部各教授同学生各組代表者、請負人代理等順次鋤を執つて土を起し式を終れり。

本校舎は坪数百三十八坪を算し、十二室を備へ、価格約十万円を要し是亦スレート葺二階建煉瓦造にして地下室を備へ、本年末までに竣切の予定なれば落成の上は

大講堂の竣成と相俟つて単に学院のためのみならず神戸の教育中枢地域に更に壯觀を加ふるなるべし。」とある。(一頁)。

(9) 青木澄十郎については、『開校四十年記念関西学院史』(一九二九年)に記述がある。「青木澄十郎は、明治三年埼玉県岩槻町の生れなり。明治学院、同志社等を経て、プリンストン大学及びノースウエスタン大学に学ぶ。明治三十四年以降、日本基督教会の教職として伝道に従ふ。明治四十年四月神学部講師となり、ヘブライ語、旧約神学等にその蘊蓄を傾け、熱心教授の任に当る。大正八年一身上の都合により学院を辞し、専ら日本基督神戸教会牧師として伝道す。後感する所あり、一切の教派を離れ、同志と共に新たにイエスキリスト教会を創設し、その伝道委員となり、以て今日に及ぶ。(三三頁)。

(10) 講演部とあるが、宗教部より岸波常蔵教授、木村巳之吉、今泉隼雄、大塩彦治郎、鈴木信五郎、弁論部より河上丈太郎教授、川那邊惇一、木村直治、大石兵太郎、大島貴四郎、商科会より東晋太郎教授、武田国彦、米谷茂、前川清と、三部が一同となって、七月一日より十六日まで、敦賀、福井、金沢、富山、長野、松本、甲府などを巡回する文化宣伝旅行を行っている。(『商光』第一号、一九二一年十二月) 八八・九三頁。

(11) 華氏の気温のことで、摂氏三十五・六度。

(12) 関西学院神学部主催の第四回夏期学校で、八月三十日より九月五日にわたり開かれた。詳細は『教界時報』一五六七〜六八号（一九二一年九月十六日・二十三日）に記述がある。

(13) 「最近の欧州大戦乱を母に持てる新興国ラツトビアの領事オゾリン君が高商部の講師として数年間学生へ与へられたる紳士的感化と学術上の智識とは多大の感謝に価するものなるに、此回の辞任本国リガ市への帰郷は深く惜みて氏を送ると共に新建国の為に斯新人の安健と努力を祈る。」（『関西学院学報』第一号、一九二一年七月二五日）。オゾリンについては、池田裕子「関西学院のラトヴィア人教師イアン・オゾリンとその教え子―曾根保と由木康」（『関西学院史紀要』第十七号、二〇一一年、五五〜八九頁）参照のこと。

(14) 『教界時報』一五七二号に「神戸における故ランバス監督追悼の一般」と題する報告記事がある。

「遺骨出迎 故ランバス監督の遺骨が我が神戸の地に迎へられたのは、大正十年十月一日午前のことであつた。この日朝九時十六分の列車にて三宮駅に到着せる遺骨は、関西学院を代表する数名の人々に迎へられ自動車にて学院に運ばれた。学院にては、正門より神学館に至る道の両側には中学部、高等商業学部文学部、及神

学部の職員及び学生一同整列もて遺骨を迎へ、遺骨はヘーデン神学部長の手に捧持されつゝ、安置式を行はるべき神学部講堂に運ばれた。

（安置式）直ちに同講堂にていと厳そかに行はれた。式はヘーデン博士によつて司どられ、代表者としてベーツ博士及び日野原牧師の二名が祈りを捧げた。

（告別式）十月三日（日）午後二時半より関西学院高等学部チャペルにて、司会は田中中学部長及びヘーガー博士の二名式は奏楽に始まり、会衆一同にて讃美歌一七を歌ひマイヤス博士の祈祷、聖書朗読（旧約）ウイルクン師、同上（新約）堀牧師、有志合唱と進み、次にタウソン師、及び松本博士の二名によつて故人の履歴が朗読された。アフコニユートン博士、吉岡博士の説教あり、それより故監督の愛歌なる讃美歌一七一番を一同にて歌つた。

追悼の辞は、砂本牧師及びゲインズ師、弔辞は兵庫県知事有吉氏、関西学院代表ベーツ博士、信徒総代中村平三郎氏、京都同志社総長代理蘆田神学部長により夫々述べられ記念撮影をなし、釘宮牧師の祈祷、ヘーデン博士の祝祷を以て式は閉ぢられた。この日参ずるもの京阪神は勿論、極めて多数にのほり厳肅にも又極めて盛大にして故人の感化の如何に深大なるかそゞろに思ひ偲ばれるのであつた。

(この日、式の始まる前、遺骨は関西学院代表者及び旧友等に護られてかねて安置せる神学部講堂より式場に移され、式終るや直ちに同様にして元の位置にまで安置された)。

(墓前告別式) 越えて七日午前、元居留地墓地なる厳父J、W、ランバス氏の墓前に於て出帆前に行はれた。司会者はヘーデン博士、日野原牧師の二氏祈を捧げ式は実に厳肅の中に閉ぢられた。

(遺骨日本を去る) かくて故ランバス監督遺骨は各宣教師、関西学院代表者、及び市内各教職その他多数の見送りを受けて、遺骨を載せた諏訪丸は故監督にとつて思ひ出浅からぬ日本の地を永へに去られたのであった。

噫

タウソン博士、ニュートン博士吉岡博士の三氏は尊くも又寂しき使命を帯びて共に乗船、上海に於ては亡き母君の墓地の側に葬らるゝ筈と聞く。

(追悼礼拝) 神戸中央メソヂスト教会にては、同教会創立者としての故監督を記念するため九日聖日は特に故監督追悼礼拝をした。同教会は実に明治十九年九月十七日故博士の創立にかゝる。牧師日野原善輔氏はタウソン博士のものせる故人履歴を訳読し、松本博士は『近代使徒の面影』と題して頗る時宜に適せるよき説教をされた。」(八頁)。

(15)

礎石のなかには次の二十七品目が入れられた。「W・R・ランバス遺髪」「日本通貨、郵便切手」「日本に於けるメソヂスト教会」(大正九年)「大阪朝日新聞、大阪毎日新聞、神戸又新日報、神戸新聞、ジャパン・ガゼット」「関西学院学報」第一号「関西学院要覧」「関西学院理事会定款」「関西学院社団定款」「関西学院高等商業学部要覧」「学生会名簿」「神学部学生会規則」「関西学院高等学部学生会規則」「弦月歌集(校歌)」「高等学部教師学生卒業生名簿」「商光」第十号「関西学院神学部略則」「通信教授部要覧」「日曜学校教師養成所」覧」「関西学院中学部規則書」「関西学院絵葉書」「中学時報」「神学評論」「関西文学」「日本メソヂスト教会第十四回西部年会記録」「関西学院拡張計画一覽」「中央講堂建築委員建築技師請負人建築監督者名簿」「関西学院理事、総務委員名簿」(「関西学院学報」第二号、一九二二年六月二十三日、二頁)。

(16)

一八七七(明治十)・四・八一―一九四七(昭和二十二) 牧師、政治家。仙台の第二高等学校在学中、同郷の吉野作造、小山東助らと共に、A・S・ブゼルの指導するバイブル・クラスに出席、熱心に求道し、やがて仙台市内のバプテスト教会で受浸した。一八九九年東京に赴き、東京帝国大学文科大学英文科に在学中、海老名弾正の進歩的・自由主義的信仰に傾倒、その牧する

本郷教会（現・日本基督教団弓町本郷教会）に転籍。吉野、小山らも相次いで同教会に集まり、共に雑誌『新人』の政治、文化、社会など多方面にわたる文筆活動に参加した。（後略）。『キリスト教人名辞典』日本基督教団出版局、一九八六。

(17) 華氏の気温のことで、摂氏一七度。

(18) 当日の演題は次の通り。「人間の経験に映じたる基督教」(C・J・L・ベーツ)、「景教について」(村上博輔)、「ヴィクトリア朝のときに現れたる宗教的楽天主義」(H・G・バーネット)。

(19) 『関西学院学報』(第二号、一九二二年六月二十三日)に「二十日、日曜日午前九時同山大師教会に於て一般僧侶及僧侶学生の諸氏に對しての説教題は「宗教とは何ぞや」ベーツ博士。此回ベーツ博士は英語にて演説し自ら邦語に翻訳せられたるを以て通訳と二人前の働きをせられ頗る便宜にして且つ一種の感動を聴衆に与へられたとは隨行者の土産話。」とある。(一頁)。

(20) 「近畿地方中等学校第三回雄弁大会は本学院中学部主催大阪朝日新聞神戸支局後援の下に一月二十一日(土)午後一時から高商部講堂に於て開催せられました。出演弁士十七名、青春の血燃ゆる若人の交々立つて熱弁を揮ふ様はいと頼母しいものでありました。中村先生のヴァイオリン、グリーククラブの合唱等ありて更に一段の興趣を

添えました。」(『関西学院学報』第二号、一九二二年六月二十三日、一頁)。

(21) 大正十一年一月二十一日土曜日此日晴天寒威猛激氷点下五度の気温にして神戸測候所創立以来第二回目の寒氣と仰せられました。

神学博士監督鶴崎庚午郎氏は此烈寒中態々東京より聘に応じて来院せられ午後三時より神学部図書室に於て神文、商の三専門部教授の一集団は監督の談話を謹聴せられた。蓋し監督の談は昨夏倫敦に開かれたる世界メソヂスト教会代表者会に出席せられ往復の途次英仏、伊、米等を経て帰国せられたるその実見談にして外国人の對日本人□□より説き起して稍々詳に入り職務上の代表会議の模様を話され感想、論議、亢奮、鎮靜、抗議、輓当、和睦、笑諢、就中黒人代表者の提出に係る人種差別撤廃案特に日本人監督なる自分に倚頼の深き板挟みの苦境等抑揚波瀾的一幕を最も面白く話されましたので一同満足して感謝せられ本日の記念として神崎高商部長の發議松本副院長の賛同により今後専門部内に一のクラブを起すこと、なり宗教教育學術等に付き懇談をすることに決し院長の指命に依り松本、神崎、河上、アウターブリッジの四氏を委員に挙げ茶菓の饗応を以て五時頃愉快に散会となりました。(『関西学院学報』第二号、一九二二年六月二十三日、三頁)。

(22) 二月四日土曜日 大阪朝日新聞神戸通信部の後援にて
吾が専門部の語学部第七回語学大会を神戸基督教青年会館に催し雨天にも係はらず紳士、淑女約一千人許りの会衆を得て盛況裏に閉会しました。(『関西学院学報』第二号、一九二二年六月二十三日、三頁)。

(23) 三月十九日、日曜日午後二時半学年末礼拝を新築の中央講堂に於て執行し東京よりエス、エーチ、ウエンライト博士を聘して精神上の境域なる題下に卒業生に対する博士の説教を謹聴しました。蓋し新中央講堂使用の最初にして聴衆約一千名盛況でありました。(『関西学院学報』第二号、一九二二年六月二十三日、三頁)。

(24) 今回落成の新講堂は新式の設計設備に従ひしもので江洲八幡のヴォーリス会社の設計神戸の竹中工務店の請負に係り価格約十二万円を費し座席は後方へ漸騰式にして準備の腰掛は約千五百名に対し少年を混じて詰め込むときは優に二千人を容る、ことが可能でせう。

昨年六月以来請負者が出精に築き建て、前記の諸儀式に間に合はせたりは先づ手際と言ふべきでせう構造はスレート葺き煉瓦造で地下室は社交用の大広間の外台所小使室及給熱用機関室其他の設備完全にして階上の南端に飯院長室、秘書室等を備へ坪数は左の通りであります。地下室 二百十坪、二階 二百三十八坪、三階 二百八坪(『関西学院学報』第二号、一九二二年六月二十三日、三頁)。

(25) 翌二十日月曜日午前十時同講堂に於て学院第三十二回卒業証書授与式執行早稲田大学教授安部磯雄氏を聘して卒業生に対する演説を依頼しました。氏は『社会の指導者』なる題下に懇々と説かれ卒業生は勿論一般聴衆に深き感動を与へられました。(『関西学院学報』第二号、一九二二年六月二十三日、三頁)。

本資料の翻刻には、元本学大学院文学研究科大学院生の山下真弘さん、永野啓子さん、元大学図書館職員の井戸田史子さんの多大なる協力を得ました。記して謝意を表します。

(井上琢智、川崎啓一、高木久留美)